

本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森」を里やまとして守り、楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。



コウヤボウキ

(撮影：山本征弘)

硬く細い茎が和歌山県高野山で竹の代わりに簞の材料とされたことが名の所以と云われています。花の香りは一級品です。海上で探してみませんか

## 収穫感謝祭に参加しよう！

11月16日(日)、例年同様に里山サテライトにてあいち海上の森センターと共催で収穫感謝祭を開催します。里づくりグループが支援した「里の教室」で目の前の田で作った海上の里のもち米で祝う文字通り地産地消の感謝祭です。(既報は15日でしたが変更になっています。ご注意下さい)

里の収穫祭とはいうものの、里を囲む森と水と生き物たち、「自然」のお蔭に感謝する祀り(まつり)です。海上の森や里山に、あるいは気

持ちだけでも海上の森の会会員として関わった証に舌鼓を打ちに是非お越し下さい。

海上の森の会 会長 山川 一年  
事務所 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1  
「あいち海上の森センター」内  
「海上の森の会」事務局  
TEL&FAX 0561-21-9298 (留守電対応)  
e-mail : kaisho\_satoyama@yahoo.co.jp  
ホームページ <http://kaishonomori.com/>

### 海上の森だより第13号目次

海上いま、むかし	P.2
海上歳時記	P.3
未来予想図(番外編)	P.4,5
溜め池勉強会の進捗状況	P.6,7
グループ報告	P.7
ぎゃ~ろめ通信	P.8
事務局からのお知らせ	P.9
運営委員会議事録他	P.9
11月~正月の行事予定	P.10

## 米作りが始まった頃 弥生時代

海上に稔りの秋がやってきます。最近では早生種の「祭晴」となって稲刈りも以前より1ヶ月以上も早くなりました。温帯モンスーン気候の日本は、2千年以上に亘って稲作農業を続けてきました。日本文化の基層には米の収穫（死滅）と播種（再生）がありなす年中行事が形成されたと民俗学は指摘するほどです。

わが国で米作りが始まったのは弥生時代(B.C3～A.D3世紀)の頃とされてきました。厳密にはこの米作りは水稻耕作のことで、最近の考古学では「プラントオパール」(米の化石)が中国では8500年前、岡山県総社では4500年前と比定されるものが発掘されているところから、陸稲栽培はそれ以前から行われていたと考えられています。

昭和48年、山口川の支流吉田川河川敷で私は高校生と発掘調査しました(岡多線予定地の事前調査)。その結果、倉庫跡と思われる所から弥生式土器片(中期・後期)を採集したのです。平成13年、愛知県埋



海上の稲干しと猪垣(2002年秋)

蔵文化センターは瀬戸環状道路建設に先立つ吉野遺跡(吉田町)の発掘調査を行いました。その中で並行して掘られた2条の畦と2枚の水田が発見されています。このことから、海上の入り口である山口川に架かる屋戸橋(標高92m)下流の沖積低地では2千年前から米作りが行われていたことがわかります。大事なことは、これまでの縄文時代の採集経済から生産力の向上した農耕経済に移行したことによって、貧富の差

や支配階級が登場する社会が誕生したことです。中国の正史『魏志』・倭人伝ではこの頃の日本が、女王卑弥呼に治められる邪馬台国や多くの小国家に分立していることや当時の生活・風習などを細かく伝えてあります。

さて、この時代の米いわゆる「古代米」については、その起原・原産地・伝播経路などの調査研究が進んでいます。古代米には「赤米」(ジャポニカ種のうるち米が多い)、「黒米」(インディカ種のもち米が多い)があり、生命力が強くて冷害・干ばつにも強いといわれています。森の会の冬木さんが研究されていますし、海上地権者の一人鈴木敏明さんが長年海上の自田の一部を使って古代米の栽培を続けておられるので、是非別の稿で取り上げていただきたいテーマです。

(山川 一年)



吉野町の柵状遺構:河道から導水するための堰と考えられる

(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター編集

「まいぶん愛知 65」H13.6/21 発行より



## この季節の見どころをご紹介

10月、朝夕は涼しさを増し過ごし易くなって来ます。野の花はアケボノソウ、アキチョウジ、アキノキリンソウ、ノコンギク、セイタカアワダチソウなどにぎやかです。森ではコウヤボウキの花が残り、ミヤマガマズミ、ナツハゼ、サルトリイバラ、ミツバアケビなどの実が見られます。ミヤマアカネ、ホソミオツネントンボ、アサギマダラ、エンマコオロギ、カンタンなど昆虫もまだ健在です。

11月、ヤマハゼ、ヤマウルシ、ヤマザクラなどの紅葉が始まり、風の強い日には落ち葉が盛んになり、コナラ、アベマキなどのどんぐりが沢山落ちて

います。ウメバチソウ、センブリ、リンドウ、リュウノウギク、スイラン、ヤクシソウ、キダチコンギクなどがまだ残っています。

12月、ウリカエデ、タカノツメ、アカメガシワ、コナラ、アズキナシ、ネジキ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ナツハゼ、カナクギノキ、ダンコウバイ、コアジサイなど紅葉（黄葉）が全盛期で非常に楽しめます。昆虫は少なくなります。ジョウビタキ、ルリビタキ、アオジ、カシラダカ、ツグミ、カケスなど野鳥が増え一味違う楽しみが増えます。

山歩きには最高の季節です、お友達、ご夫婦で自然豊かな海上の森を楽しみましょう。

(山本征弘)



アケボノソウ



アキチョウジ



アキアカネ



ウメバチソウ



アサギマダラ



カナクギノキ



人と自然とのつながりを探し、感じる旅  
**徳島・吉野川河口・沿岸域の夏を味わう!**



河口の中洲は夏最高のリゾート!

8月2日(土)とくしま自然の会主催「吉野川人と海とのつながりと恵みを感じるエコツアー」に参加した。吉野川は未だ河口と沿岸の豊かさを保っている稀有な場所だ。船で中洲に連れていってもらって中洲を歩いたら、河口とは本来どのようなものなのかがようやく実感できた。淡水の川が海水と出合う浅瀬はゆるやかな弧を描きながら流れていて、小魚や貝が生きる場所がここにあることがわかる。



埋まりながら中洲を歩く

中洲は柔らかい沼地のようで、下手をすればまって抜けられなくなる。前の人の足跡を辿りながらの歩行は厄介、要注意。砂地のカニ、ヨシの根元のカニ、種類の違うカニがワサワサいる興味が道案内だ。砂、泥とカニの種類がそれぞれ違うので目が離せない。吹く風が心地よい。遮るものがない風景は気持ちをどこまでも解放していく。

かなり遠くに誰かいる。近づいていくと、貝を掘っている。幼い女の子が水着姿で遊んでいる側で、ひたすら掘る男性の成果を見せてもらう。アサリに似ているけれど模様が違うのはハタビという貝。アサリよりおいしい今や幻の貝なのだそうだ。



藍色の縦島模様のハタビ

海に向かいながら振り向くと建設中の東環状大橋が見える。春に見たときよりさらに建設は進み、河口を遮断する。さらにもう1本河口の直近に建設される予定の橋(高速道路)を止めてほしいと願うのは、何よりも河口の広さを愛する徳島の人たちばかりではない。



小エビ・八モ・カキ・スダチ・鳴門金時芋

今も残る松林は、少しずつ干拓して畑地を広げてきた歴史だった。重機で一気に磐石なものを作るのではなく、時間と自然と相談したかのような造作物は風景に溶け込んでいた。

ワイズユースとは、ゆっくり自然を利用してきた歴史の中にこそある。

さて心待ちにした昼食。ほんとうにおいしいものが食べたかったら、生産地で食べるということ、当たり前のことがつとに贅沢な今日。フードマイレージは高いほど地元産と鮮度から離れて行くことを実感させる昼食は、八モ、エビ、ワカメの海の幸づくしだった。

高級料亭ならウン万円かというたくさんの八モ。確かにおいしいけれど、昨夜八モの水揚げのついにかかったという茹でた小エビのおいしさはどうだろう。殻ごと食べて止まらない。そういえば昨晩



は 30 年ものカキを食べた。今日のデザートは鳴門金時芋。どれにも全てにスタチを絞ってかけるのが徳島流。柑橘の味がおいしさをさらに引き出す。



### ソロモン諸島と SATOYAMA の共通点

8 月 3 日は、昨日とは変わって室内で「吉野川汽水域シンポジウム 人々の暮らしと河口及び沿岸域の自然環境との関わり」に参加した。

プログラムを並べると

部：市民が地域の環境を理解・評価・保全する活動としての「ふれあい調査」の意義とは？

部：河口や沿岸域の保全・開発・利用を調整するための統合的沿岸管理とは？

部：総合討論 吉野川汽水域のために、徳島で市民ができること

紙面の関係もあり、印象的だった部の宮内泰介（北海道大学大学院 環境社会学）さんの調査について述べる。

ソロモン諸島で調査した所有権や利用権から浮かび上がったのは、柔軟な共同所有・利用のしくみだった。土地の全体をみんなで所有し利用しあうしくみには、自然を公平に効率的にかつ持続的に利用してきた知恵がある。人間は「社会的なしくみ」の中で自然との相互作用を行ってきた。固定的な「正しい」生態系の状態はない、との説明には日本の里山にも共通していて、里山が決して特別視されるものではないと思った。日本の里山を所有や利用のしくみから考えて、持続可能にしていくにはどうすればいいのかのヒントになるかもしれない。



「ふれあい調査」は社会 - 生態システムを自分たちの手にする手法

今回のツアーとシンポジウムは、日本自然保護協会の「ふれあい調査」と合わせて、吉野川の恵みにふれながら、自然と産業をうまく連携させてきた地域の宝を再発見することでもあった。シンポ部の統合的沿岸域管理で清野聡子（東京大学大学院 総合文化研究所）さんは、地域の知恵が川と地域の環境の保全・再生の鍵だと述べられた。徳島というまちが吉野川を抜きにしては考えられないように、さて、瀬戸市ではどんな自然が人々の生活を支えてきたのだろうか。

「ふれあい調査」は住民だけで歩く、専門家と一

緒に歩く、じっくり聞くという手法をとりながら、聞き書き、年表にする、地図にするなどでまとめて、地域のみんなで共有する地域再生の手段でもある。

海上の森あるいは瀬戸市で「ふれあい調査」を行うとしたらどんなことがわかってくるだろうか。それには、まずやりたい！という「思い」がなければならない。

「吉野川での自然とのふれあいの思い出、体験」をテーマにしたシートには、

目に浮かぶ風景 耳に残る音 鼻に思い出す匂い

肌によみがえる感触 舌になつかしい味 とある。

あなたの忘れられない風景、音、匂い、感触、味は何ですか？

(S・Y)



ヨシの下にはハクセンシオマネキ

### ため池勉強会の経過報告

本会発足当初から、海上川の水量が減少し、現行の水田を灌漑することにも支障を来す状況が続いておりましたので、灌漑用水の整備は会にとっての大きな課題でした。05年11月20日には当時のアカデミーグループで「ため池を作ろう」という企画を立て、今は放棄されているため池の現状確認踏査をしました。その結果、4つある旧ため池を再生させるためには、かなり大がかりな工事が必要になることが分かりました。

そこで、会主催のため池勉強会を発足させ、ため池再生の問題点、工法・工期・工費、手続き、その他の課題にじっくり取り組もうということになりました。勉強会発足前の07年10月30日には豊田市北一色・山ノ神地区で県がおこなっているため池修復工事現場を見学しました。築堤には鉄分含有量の多い粘土の発見が欠かせないことも分かりました。

第1回勉強会は07年11月17日におこなわれ、海上川の水系と用水路、旧多度神社奥の院下の池、桜池、弘法堂南の砂防池の現状を確認した後、ため池再生に優先順位を決めることの必要性、ため池の土地所有者を確認、予定するため池の総貯水量、助成金申請の可能性などを話し合いました。

第2回勉強会は08年1月14日におこなわれ、多度神社奥の院下のため池（台帳面では堰堤池）と桜池（同・桜ヶ池）を再度調査した結果、ため池堰堤の中心部に粘性の強い土（尾張方言ではハガネツチといいますが）が入っていたこと、同質の粘土が両



弘法堂南の休耕田 08.07

ため池付近に包蔵されていることも確認できました。再生に向けてのかなり明るい材料になりました。

第3回勉強会は3月30日におこなわれ、桜ヶ池、堰堤池を管理する山口共有財産管理委員会委員長の山田泰司氏をお招きしました。同氏は桜ヶ池、堰堤池の何れであっても、再生したいということであれば、財産管理委員会として問題にすることはないが、本格的なため池再生とは別に、小規模な貯水池を複数造ってはどうかと提案されました。水害の危険が少なく、水不足解消の即効性もあり、この提案には大いに刺激を受けました。

第4回勉強会は6月14日におこなわれ、森山昭雄氏とともに堰堤池と桜ヶ池付近を探索してハガネ土の包蔵状況を確認しました。森山氏から、海上集落周辺の花崗岩（地質）と猿投断層（地形）の特質、「断層粘土」についての話があり、ハガネ土は意外に身近に豊富に堆積しているという感想を述べられ、心強く感じました。寺岡靖介氏からは「稲井」（谷水の保温装置）づくりの提案もありました。

臨時勉強会（第5回とします）は7月27日におこなわれ、弘法堂南の谷で休耕田を活用する簡易型貯水施設の候補地の現状確認をし、貯水は可能か、今後しなければならない各種調査、貯水施設を設置するために必要な手続きと費用、貯水施設設置に望ま



れる工法・工期・人員等が検討されました。その結果、センターで地籍図に複数の候補地をプロットし、それを元に次回以降、設置に向けての具体案を検討することになりました。

最後に、勉強会で検討しているため池再生の最終目標は、海上の里、海上の森がどうあるべきかという海上の森の未来図の検討結果を踏まえた水環境の整備であることを確認しておきます。

(伊藤良吉)



堰堤池調査(多度神社奥の院下) 08.06

## グループ報告

### 里のくらしグループ

6月28日(土) ホタル鑑賞会を実施しました。

夕方から霧雨もようで条件は良くありませんでしたが「ゲンジボタル」も「ヘイケボタル」もたくさん飛び交ってくれました。ゲンジボタルのピークのような感じでした。

当日、日進市より来て下さった家族さん「おじいちゃん、あばあちゃん、お孫さん」の三人で、お孫さんが「ホタルの墓」という映画を見て実物のホタルを見たいという事でホームページを見て来て下さったとのことでした。私も幡山東小学校の校長先生のお招きで見て感激しました。

又ホタル観察は来年度「モニタリングサイト1000」に向けて調査開始をします。

(出口)

### 里づくりグループ

里の教室の始まりは田植え作業です。里づくりスタッフの献身的な協力により、準備は完了し、6月1日、総勢70余名により盛大に田植えが行われました。幸い晴天に恵まれ、幼児から高齢者まで泥だらけの奮闘により、見事に苗が植えつけられました。

すくすくと成長し、10月11日は黄金色の稲穂を刈り取りの予定で楽しみます。

野菜作りは多少の水不足はあったものの天候に恵まれ、豊作の年となるでしょう。インゲン、ジャガイモ、スイカ、瓜、茄子は手入れのいかにもあり、満足していただいたと思います。残す里芋と薩摩芋が気になることですが、現在は順調ですが今年も猪が至る所を荒らして、一部の農作物が被害にあっています、嚴重な囲いが必要と思われます。

一昨年からは蕎麦の栽培に取り組んでいますが、今年は蕎麦づくりが本格的なものになるよう、本業の人などの指導を受け着々と進めています。11月16日の感謝祭は今から楽しみます。

(鈴木五男)

里づくり教室今後の主な日程	10月11日	9時30分～14時30分	稲刈り	はさの説明
	11月2日	9時30分～14時30分	里芋収穫	蕎麦の脱穀
	11月16日	9時30分～14時30分	収穫感謝祭	
		サテライトにて	餅つき	芋煮 焼き芋 手打ち蕎麦

こうよう こうよう かいしょ もり い  
紅葉よも黄葉の海上の森へ行こう



ひろたおぼえのなみ  
おみやげは  
ひっつきむしの  
いろい3



山全体を彩るのは樹木。  
でも 道端の草花も秋色だよ。  
コオロギやキリギリスは秋の音を♪



おちばあそびと  
まんげきょう

拾い集めた木を詰めて  
まんげきょうをつくるよ。  
(キットがあるから.かんたん)  
木のぼり.落ち葉すべりもね。

12/21 のこぎりで  
竹を切ってみよう

注意! 力加減は.経験してこそ身に付くもの  
体得が一番. 1本の竹の重さも体感しよう  
あそべるもの. かざるもの. なにつくる?

カハカコノハツノオヌチヨウニヒツリトサクハナカスキニコニアルコトウエチタリミンテアルトドモリヨアルテアテフ...

カハカコノハツノオヌチヨウニヒツリトサクハナカスキニコニアルコトウエチタリミンテアルトドモリヨアルテアテフ...



## 事務局より

「NPO法人」の勉強をはじめました  
海上の森の会のこれからをどうするか？の一つの選択肢として「NPO法人」について6月の運営会議で検討し「とりあえずどのようなものが基礎勉強から始めたらどうか」の結論を得ました。

これを踏まえ、7月の運営会議と9月20日は講師を招き「NPOとは」の勉強会をしました。

(福田)

### 海上の森の会・事務局の対外活動

(6月以降分)

- 6/7.21 瀬戸市市民活動連絡会主催「生涯現役講座」の進行と活動発表
- 7/11 「あいち自然ネット」企画の打ち合わせ
- 7/17 一宮「甲申会ウォーキングクラブ」海上案内
- 8/19 「国際フォーラム」作業部会に参加
- 8/21～24 「夏休み海上の森探検隊」企画に協力・参加
- 8/22 JTB主催「海上クリーンアップ・ハイキング」海上案内
- 8/24 朝日新聞社「モリコロの里山体験」海上案内
- 8/24 テレビ愛知COP10関連取材
- 9/12 「あいち自然ネット」会議
- 9/17 「田原里山の会」に活動紹介

## 第49回～第50回運営会議で話し合われた主なこと

### 第49回運営会議 2008.7.19

海上の森幼児森林体験推進会議委員に冬木幹事を推薦 / 甲申会ウォーキングクラブ案内の報告 / NPO法人化勉強会を9月20日開催決定 / 20年度「里山のものづくり」業務受託を決定 / 海上の森センターが21年度参加体験プログラムの全面委託と常駐職員の専任委託  
第2回「人と自然の共生国際フォーラム」の実実施計画と11月15日～16日開催 製材機小屋設置計画と工程について説明 / 「報酬基準」の事務局素案は継続検討 / ため池勉強会「稲井」の復元について説明 / 海上の森駐車場周辺の樹木のカシノナガキクイムシ被害状況報告 / モニタリングサイト1000調査開始の報告 / 草刈実施の報告 / 7月6日イノシシ防護ワイヤーネット柵補強と一部延長実施の報告 / 生活史調査グループが動植物名の方言調査カードを作成し秋から調査開始 / 収穫感謝祭を11月16日に日程変更

### 第50回運営会議 2008.9.13

「海上の森だより」第13号原稿の確認 / 8月22日JTBごみ拾いツアー案内の報告 / 「岡崎健康ウォーキング」案内依頼を断り周辺地図送付の報告 / 「あいち自然環境団体・施設連絡協議会」8月21日～24日開催の子ども対象イベントに21日と24日参加協力 / 東邦ガス(株)環境部から賛助団体加入申入れの報告 / ホテルキャッスル(株)から企業提携・協力問合せの報告 / 「海上の森の会」NPO法人化勉強会9月20日開催と出席者の確認 / 第2回「人と自然の共生国際フォーラム」ポスターセッション参加要請について事務局が対応 / 「海上の森幼児森林体験推進会議」の報告 / 海上の森センターが「幼児森林体験推進事業」の3月20日公開講座開催・フィールド整備予定箇所・マニュアル作成 地域別森林整備の実施場所 海上の森農地整備の取組実施(素案)について説明 / 海上の森センターの21年度参加体験プログラム及び専従職員委託について事務局が対策検討 / 事務局が「報酬基準」原案作成し次回提案検討 / サテライト下屋づくりは事務局が検討 / どぼちづくり(稲井の方言。水田を少し深くして水をためるもの)の現地調査会を10月18日に開催予定 / 第2回海上の森ツアーを9月13日に実施 / 冷蔵庫が道路斜面に不法投棄の報告

運営会議は傍聴できます。

ご希望の方は事前に事務局までご連絡をお願いします。

(似内)

# 10月～正月の行事予定

10月	11(土) 作業道整備他 9:00～15:00 湿地の渡り木橋の補修など	集合:現地(弘法堂横) 持物:昼食・飲料水・手袋	【森づくりグループ】 対象:会員
	18(土) 第6回ため池勉強会 10:00～12:00 本格的なため池場所の選定と簡易型貯水池(休耕田活用)設置の具体策を検討します。	集合:里山サテライト 持物:飲料水、弁当、筆記具、手袋、長靴	【会行事】 対象:会員
	25(土) 資料の管理と調査 10:00～13:00 収集資料の管理方法の検討と聞き書き調査を行います	集合:里山サテライト 持物:昼食・飲料水・筆記具	【生活史調査グループ】 対象:会員
11月	25(土) 海上の歴史(4)海上の近代 13:00～15:00 講師:山川一年 シリーズ第4回目、現代に繋がる具体的な事跡がいよいよ姿を現します。	集合:里山サテライト 持物:飲料水、筆記具	【会行事:学びと交流の集い】 対象:会員、非会員(中学生以上)
	1(土) 落ち葉あそびとまんげきょう 9:30～14:30(午前のみ参加可) 小さな秋を拾ってみよう!	集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、弁当	【野あそびグループ】 対象:会員、家族会員 (友達誘って当日入会可)
	16(日) 収穫感謝祭 9:30～14:30 里の教室で収穫した農作物を使った料理を皆でいただきます。	集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器・箸	【会行事:あいち海上の森センターと共催】 対象:会員、家族会員、非会員 参加(食材)費:実費(500円/人の見込)
12月	21(日) のこぎりで竹を切ってみよう! 9:30～14:30(午前のみ参加可) 竹を切って倒すところからやってみよう!	集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、弁当	【野あそびグループ】 対象:会員、家族会員 (友達誘って当日入会可)
	27(土) 年末行事と大掃除 9:00～15:00 正月準備(餅つき、門松たて、オコズナ撒き) 大掃除もしますので汚れてもよい服装で!	集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器・箸、手袋、雑巾タオル	【里のくらしグループ】 対象:会員、家族会員、非会員 参加(食材)費:会員は300円/人、500円/家族、非会員は500円/人
1月 予告	11(日) 正月行事とドンド焼「二日のトロロ」「七草粥」 10:00～15:00 子供さんの書初めなどあれば持参下さい	集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器・箸	【里のくらしグループ】 対象:会員、家族会員、非会員 参加(食材)費:会員は300円/人、500円/家族、非会員は500円/人

## 定期開催している活動

生物季節調査(花・虫・鳥) 動植物の四季の変化を継続調査しています	【自然環境調査グループ】
毎週木曜 9:30～	集合:海上入口駐車場 持物:昼食、飲料水 対象:会員
森の間伐 作業日は10/11(土)・21(火) 11/8(土)・11(火) 12/6(土)・16(火) 1/17(土)・20(火)	【森づくりグループ】
9:00～15:00	集合:現地(弘法堂横) 持物:昼食、飲料水、手袋、他 対象:会員

## あいち海上の森センター募集行事の受託事業

スタッフ協力募集中!

- 【里の教室】10/11(土) 11/2(日)・16(日) 9:30～14:30 詳細はP.7参照
- 【海上の森ツアー】 11/8(土) 海上入口駐車場集合 9:00～13:30 予定
- 【森の教室】10/12(日) 11/2(日)・16(日)・30(日) 12/7(日)・14(日) 9:30～15:30 予定
- 【里山のものづくり】 10/5(日) 12/6(日) 9:30～15:30 予定

一般参加申込みは海上の森センター(0561-86-0606)まで



## 問い合わせ先一覧

グループ名・行事名	担当者	電話&FAX
【学びと交流の集い】	伊藤	0561-84-7044
【野あそびグループ】	早川	0561-21-9863
【里のくらしグループ】	出口	0561-83-3470
【森づくりグループ】	平野	0568-54-9118
【自然環境調査グループ】 【ツアーグループ】	山本	0561-54-9067
【里の教室】 【森の教室】	あいち 海上の森 センター	0561-86-0606 0561-85-1841
【海上の森ツアー】 【里山のものづくり】		

## 編集後記

編集作業をしながら、いつも気になるのは情報が乏しい一般会員の方に現状が「正しく」届くのかどうかです。海上の森の会は幹事ががんばっていますが、もちろん、幹事のためのものではありません。どうぞ、何でもご質問を編集部まで届けてください。(曾我部)

## 随時入会受付中!

年会費(4月～翌年3月) 1口1,000円 1口以上  
同居2名以上で家族会員 1口2,000円 1口以上  
賛助会員(個人・団体)大歓迎!

口座記号番号 00820-6-185628  
加入者名 「海上の森の会」

ご意見ご感想お待ちしております!

森の会への連絡はメール FAX 郵便でどしどしお送り下さい

kaisho\_satoyama@yahoo.co.jp 0561-21-9298